

「いけるよ！徳島・行動計画」評価結果概要

1 県政運営評価戦略会議について

【役割】

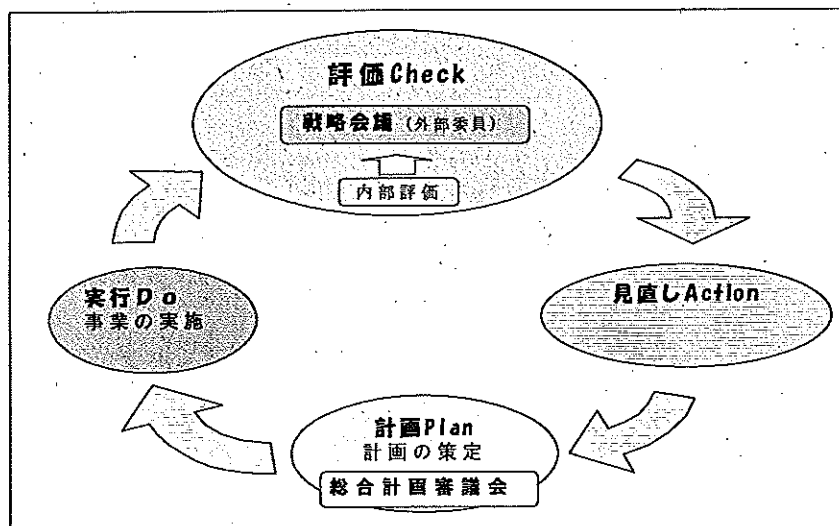
本県では、行動計画の策定・推進から評価まで担っていた徳島県総合計画審議会の評価部門を切り分け、「県民目線からのチェック機能の強化」と「県民意見の県政への積極的な反映」を図ることを目的に、新たに第三者機関である県政運営評価戦略会議を平成23年10月に発足した。この戦略会議で議論された評価結果は、総合計画審議会に提言され、行動計画や既存事業の見直し、新たな施策展開などに繋げていく。

○ 県民目線からのチェック機能の強化

徳島ならではの施策や事業を「最少の経費」で「最大の効果」が発揮できるよう県民目線からのチェックを行うもので、行政評価のPDCAサイクルにおける評価（Check）の役割を担う。

○ 県民意見の県政への積極的な反映

目安箱やわくわくトークに寄せられた「県民からの意見・提言」について、優れたものを選定し、提言することにより政策推進に係る「県民意見の反映」を促進する役割を担う。



Plan 計画を立てる
Do 実行する
Check 評価・検討する
Action 改善策を講じる

2 今年度の事業評価

(1) 開催状況

今年度の戦略会議は、7月30日の第1回会議を皮切りに8月29日まで、基本目標ごとに7回にわたり開催した。

(2) 評価対象

今年度は、昨年7月に策定された、県政運営指針である「いけるよ！徳島・行動計画」に位置付けられた主要事業（737事業）を対象とした。

(3) 評価方法

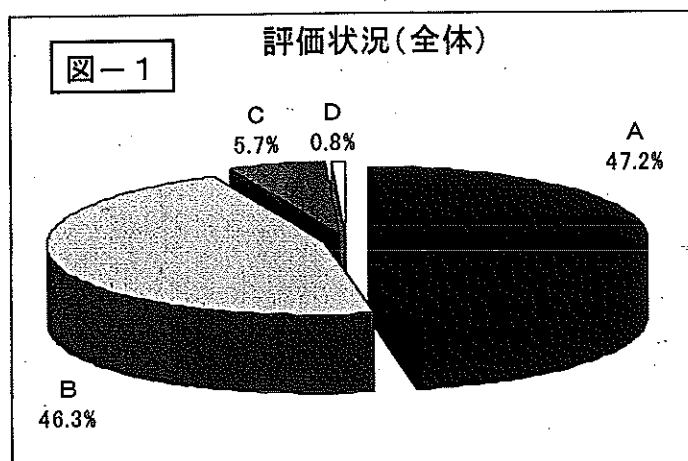
いけるよ！徳島・行動計画は、始まったばかりであり、今後の事業展開や目標達成のスピードアップに繋げるため、①H23年度の実績内容等、②課題把握、③今後の取組方針の3つの観点から評価することとし、あらかじめ、主要事業（事業概要）ごとに担当部局で作成した「評価シート」を提出してもらい、それに基づき、委員の代表者が作成した「評価案」について、戦略会議の場で議論した上、「評価結果」として取りまとめるという方法で行った。

(4) 評価結果

「A（優良）」と評価されたもの348事業（47.2%）、「B（妥当）」とされたもの341事業（46.3%）、取組内容の見直しが必要な「C」とされたもの42事業（5.7%）、目的達成のためには新たな取組の追加が必要とされる「D」とされたもの6事業（0.8%）となった。

表-1 主要事業の評価結果について

評価	基本目標	1	2	3	4	5	6	7	合計	〈比率〉
		にぎわい・感動とくしま	経済・新成長とくしま	安全安心・実感とくしま	環境首都・先進とくしま	みんなが主役・元氣とくしま	まなびの邦・育みとくしま	宝の島・創造とくしま		
主要事業	A 優良	38	77	80	31	27	36	59	348	(47.2%)
	B 妥当	56	47	65	59	41	34	39	341	(46.3%)
	C 要変更	6	4	2	10	4	14	2	42	(5.7%)
	D 追加	2	0	1	0	0	0	3	6	(0.8%)
	合計	102	128	148	100	72	84	103	737	(100.0%)



(5)「いけるよ！徳島・行動計画」基本目標別 主な評価と意見(抜粋)

基本目標1 にぎわい・感動とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 広域観光の推進 県南部圏域の団体や行政が一体となった地域主導型の連携組織を構築し、圏域の海・山などの自然環境や豊富な食材、伝統文化や人的資源を活用したイベント等を開催し地域ブランド力の向上と交流人口の増大を図ります。 ○四国の右下食博覧会（仮称）の開催 [23]～[23]年1回開催 ○ヒューマンパワーゲームズの参加者数 [21]3,300人→[26]6,000人	A	県南部地域の豊かな自然、豊富な食材、伝統文化の紹介を行う食博覧会の開催や豊かな自然を体感するスポーツイベント等を官民が連携して行っており、効果を上げていることから、「A評価」とした。 ・H23実績 食博覧会の開催 年1回開催（目標 年1回開催） ヒューマンパワーゲームズの参加者数 5,160人（目標3,500人）
2	● 空港の利用促進 徳島阿波おどり空港の臨空用地において、早期の企業立地の実現を図り、雇用の場を確保するなど、“にぎわい”のある「臨空エリア」形成に努めます。 ○臨空用地の売却・貸付状況 [21]1区画売却→[26]全区画を売却・貸付	B	県の臨空用地をメガソーラー用地として貸付けたというものであるが、“にぎわい”のある「臨空エリア」形成を目指していることから、空港の利用促進には繋がらない。ただ、東日本大震災により、自然エネルギーへの期待や津波高の想定が変わったことを加味した。 “にぎわいづくり”のための再検討が必要である。
3	● 「観光とくしまブランド」の確立 全国に向けた本県の物産・観光の情報発信を推進するため、県の「大阪・名古屋物産センター」や、全国初となった「コンビニ型アンテナショップ」のさらなる展開を促進するとともに、県外の民間店舗を、県が「阿波とくしまアンテナショップ」として認定し、官民協働による、アンテナショップ展開を図ります。 ○コンビニ型「公設アンテナショップ」の全国展開 [26]全国展開 ○民間店舗型「阿波とくしまアンテナショップ」の新規認定 [26]新規認定	D	コンビニ型「公設アンテナショップ」の全国展開を目標にしているが、全国展開を行うには相当の努力が必要であり、現在の取組では、目標を達成できないと思われる。 新たな対策を追加し取り組む必要がある。

基本目標2 経済・新成長とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 農商工連携の促進 徳島ならではの地域資源による「とくしまブランド」の活用や、本県の豊富で良質な農林畜水産物と中小企業が有する高いものづくり技術等を連携させ、農商工連携による新商品開発などを促進します。 ○農商工連携による商品開発事業数（累計） [21]41件→[26]100件 ○新商品等の開発事業数（累計） [21] — →[26]50件 ○徳島ビジネスチャレンジメッセ等新農業ビジネス出展数 [21] — →[26]40出展	A	農林畜水産業の6次産業化の推進において、数値目標におけるH23年度目標を全て達成している。 また、H23年度は、対象者の掘り起こしや商品開発や販路開拓の取組への支援、商談会の開催などをしており、今後の取組においても助成制度の周知を行うなど、本県の6次産業化の推進に期待が持てる。 ・ H23新商品の開発事業数16件（目標10件） ・ H23出展数32（目標15）
2	● 「もうかる農林水産業」の推進 本県農林水産業の持続的な発展や農山漁村の活性化に資するため、農林水産基本条例を肉付けする基本計画に基づき、施策を推進します。 ○「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画」の改定 [26]改定 ○生産額ベースでの食料自給率向上 [19]129%→[26]155% ○カロリーベースでの食料自給率向上 [19]45%→[26]50%	B	評価指標が、生産額となっているが、年により変動が激しいと思われるので、量の方が良いのではないかと。 課題として、野菜の増産に取り組むとなっているので、今後の方針としては、野菜増産に向けた方針を記載すべきである。
3	● 中小企業への支援 関西広域連合の各府県や四国各県との合同によるプロモーション・ビジネスマッチングなどを通して、販路開拓の支援や下請取引の適正化に取り組めます。 関西広域連合による商談成立件数及び売上高（累計） ○商談成立件数 [21] — →[26]100件 ○売上高 [21] — →[26]100百万円	B	数値目標に2つの指標を掲げているが、実績が全く上がっていないことから、C評価とも考えられる。ただ、大手企業と地場産業とのマッチングは、単独では難しいことから、取組としては評価できる。
4	● ベンチャー企業等の育成支援 県内の有望なベンチャー企業に対し、投資事業有限責任組合が、株式、社債の引受等の直接金融の手段による資金の提供を行います。 ○投資企業数（累計） [21]8社→[25]10社	C	現状での達成見込みが困難となっており、課題把握に努め、具体的な今後の取組方針を決定すべきである。 創業時には、新製品を開発しても物流費がネックになって全国展開できないことがある。物流業者とのいろんな研究会の開催などの支援が必要である。

基本目標3 安全安心・実感とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 三連動地震への的確な対応 三連動地震に備える「徳島県地震防災対策行動計画」の着実な推進を図ります。	A	南海地震対策全体として、スピーディーに取り組まれている。 しかし、国の津波予想が変わるということで、住民や企業は動揺している。企業としても対策を講じようとしているが、県の的確な対策が必要である。
2	● 安全で安心できる医療の提供 献血について一層の普及啓発を図るとともに、若年層に身近なメディア（タウン誌、携帯電話等）を活用した各種啓発を実施し、献血者の増加を図ります。 ○若年層献血者数（16歳～29歳） [21]7,181人→[26]8,200人 ○献血モバイル会員登録者数（累計） [21]1,044人→[26]2,000人	B	2つの指標の内1つが未達成であることからB評価とする。 若年層に献血を体験してもらうためには、200mlの献血も推進すべきでないか。 ・H23実績 若年献血7,026人（目標7,300人） モバイル1,753人（目標1,400人）
3	● 健康増進のための基盤整備 健康増進はもとより、環境に優しく、渋滞対策としても有効な自転車の利用促進を図ります。 ○サイクル・アンド・ライドの社会実験の実施 [26]実施	B	平成26年度の社会実験の実施に向け、課題がある中、先進地事例等を参考にしながら県全体で行おうと検討されていることから、取組としては妥当と考え、「B評価」とした。
4	● 食品表示の適正化 食品の産地偽装等の問題が相次ぐ中、商品選択に役立つ知識を消費者に学んでいただく食品表示に関する研修会の開催を推進します。 ○研修会の受講者数（累計） [21]－→[26]300人	C	消費者に食品表示への関心を高めてもらうため、研修会の開催や消費者祭りでPRに努められているが、研修会の受講者数が目標に達していないので「C評価」とした。 ・H23受講者数44人（目標70人）
5	● 木造住宅等の耐震化促進 特定の民間建築物（一定要件の病院・劇場・百貨店・マンション等）の耐震化を目的として、耐震診断、耐震改修などに対し、事業主体である市町村に助成を行います。 ○補助金交付要綱策定市町村数（累計） [21]5市町村→[26]24市町村	D	数値目標の達成が困難と部局で判断がされており、県のリーダーシップによる対策の強化が必要である。 また、地域差を勘案した取組の見直し、新たな働きかけが必要である。 ・H23策定市町村数7（目標12）

基本目標4 環境首都・先進とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 環境活動の「わ」を拓げる人・地域づくり 地球温暖化の防止に向け、県民一人ひとりが高い環境意識を持って行動できるよう、広域的かつ先導的に実践活動を実施します。 ○くらしのエコアドバイザー派遣数 [21] → [26] 20件 ○環境活動に対する表彰団体等の数（累計）[21] 24団体等 → [26] 150団体等	A	くらしのエコアドバイザーの派遣等において、実績を上げており、表彰については範囲を拡大するなど今後の取組方針も評価できることから「A評価」とした。また、更に目標のレベルアップを図り取り組んで欲しい。 ・H23実績 派遣件数176件（目標10件） 表彰団体47団体（目標45団体）
2	● 森を支える体制の構築 管理放棄森林の解消や、国際的な資源争奪戦からの森林保全に向け、県民や企業・NPOなど県民総ぐるみで取り組む体制を構築し、県や市町村の森林取得による公有林化を推進します。 ○新しい公共による森づくり推進協議会（仮称）の設置 [23] 設置 ○「徳島森林づくり推進機構（仮称）」の開設 [26] 開設	B	とくしま森林づくり県民会議がH23年に設置され実績を上げているが、今後の取組方針において、会員間の情報共有や新規会員の入会促進を掲げているが、具体策が記載されていない。
3	● 廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進 廃棄物の発生抑制・リサイクル促進のための普及啓発活動を行います。 ○リサイクル率（一般廃棄物） [20] 18.9% → [27] 28% ○1人1日当たりのごみ排出量 [20] 994 g → [27] 858 g ○最終処分率（産業廃棄物） [20] 4.5% → [27] 3.3%	C	第二幕においてもC評価であったが、H23年度の取組においても、普及啓発を行ったというだけで何をしたのか、また、今後の取組方針においても、普及啓発や情報提供を行うとしており、具体的な取組が分からない。 また、数値目標の実績は2年後でないと分からず、数値目標を活かすことができない。 成果が上がっていないのであれば、別の対策を検討する必要がある。
4	● 生態系に配慮した野生鳥獣の適正管理 外来種についての基礎調査を行うことにより、生態系の保全や農林水産業への被害の防止を推進します。 ○特定外来種（アライグマ・アルゼンチンアリ・オオクチパス・ブルーギル等）の生息状況を明らかにするための調査 [23] ~ [26] 毎年調査	C	鳴門市と共同でカメの捕獲を行っているが、大きな問題になってから取り組まれている。調査だけでなく、駆除対策にも取り組むべきで、対策が遅いのではないか。

基本目標5 みんなが主役・元気とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 次世代育成支援のための経済的負担の軽減 不妊治療の経済的負担の軽減のために不妊治療費について助成します。 ○不妊治療費助成件数（累計） [21]1,517件→[26]3,500件	A	チラシの作成や県ホームページへの掲載など周知に努めるとともに、助成件数も数値目標を上回っており、さらに、徳島大学に「不妊専門相談センター」を設置するなどの対策を講じていることから、「A評価」とした。 ・H23実績2,493件(目標2,300件)
2	● 地域福祉のリーダーの養成 高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるよう生きがいづくりを支援するとともに、地域福祉を推進するリーダーを養成します。 ○生きがいづくり推進員の活動延べ日数 [21]200日→[26]700日 ○シルバー大学院における資格取得者数（累計） [21]465人→[26]900人	A	数値目標を達成するとともに、学習意欲向上のため資格取得の推進に取り組んでいる。また、シルバー大学校大学院を卒業し、社会貢献に意欲のある方を「生きがいづくり推進員」として登録し、シルバー大学校などでの講師や県内小学校でのホームページ更新など活躍の場づくりにも取り組んでいることから「A評価」とした。 ・H23実績 活動日数444日（目標400日） 資格取得者669人（目標600人）
3	● 男女の出逢いの場づくり 「出逢いきらめきセンター」を中心として、官民協働による男女の出逢いの場づくりを支援します。 ○男女の出逢いの場等への参加者数（累計） [21] — →[26]15,000人	B	H23年度は、出逢い・交流の場が117件開催され5,378人の参加者があるなど評価はできるが、成果（結婚数）の把握が必要ではないか。また、いつまで県が行うのか、将来のあり方について検討が必要である。 ・H23実績5,378人(目標6,000人)
4	● 地域における障害者支援の推進 障害者のコミュニケーション手段等を確保するため、手話・点訳等の専門的知識・技能を有する各種ボランティアの他、地域における生活を支援するためのサポーターを育成するとともに、県民への理解と普及を促進します。 ○県登録手話通訳者数 [21]53人→[26]60人 ○「障害者サポーター」数（累計） [21] — →[26]180人	C	手話通訳者だけを増やすのではなく、点訳のボランティアの育成も含め、取組の強化を図る必要がある。また、オンラインで徳島行動計画（第二幕）より手話通訳の目標を下げていることもあり、敢えて、23年度の取組を低く評価した。 ・H23実績 手話通訳者数61人（目標54人） サポーター69人（目標90人）

基本目標6 まなびの^{くに}邦・育みとくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● 特別支援教育の推進 「ハナミズキ・プロジェクト」における教育施設として、病弱等を伴う発達障害の生徒に対して、社会的・職業的自立に向けた教育を行う、全国に先駆けた「オンリーワン施設」となる「徳島県立みなと高等学園」を設置します。 ○徳島県立みなと高等学園の設置 [24]開校 ○徳島県立みなと高等学園生徒数 [21] → [26]4学科96人	A	個性尊重とくしまづくり関係事業については、一層の事業推進に期待するが、全体的に事業の取組や取組方針、課題への対応は評価できる。 「徳島県みなと高等学園」の設置、専門人材の配置、育成、就労支援など地道な業務であり、政策的支援の必要な事業である。
2	● 活力と魅力のある学校づくり 産業技術の進展や企業が求める人材の育成を図るため、産業界や大学、県の研究機関と連携し、専門教育の充実に取り組むとともに、学科の異なる専門高校が連携する高度な教育を推進します。	B	チャレンジメッセ等で長年産官学連携活動が行われており、その効果を分析評価し、各種プロジェクトやモデル事業に展開するのが、本事業の趣旨と思われる。しかし、課題がこれから事業成果の検証方法の検討を行うというのでは遅い。
3	● 確かな学力の育成 子どもの読書活動推進計画に基づき、県内全域で読書習慣の定着を図ります。 ○家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合 小5 [21]66.0%→[26]77.2% 中2 [21]55.5%→[26]67.6%	C	読書は教育の基本であり、学力向上、人間性の醸成に重要なことであることから、この状況を調査・解析して読書率の向上に向けた取組の工夫、対策に努力が必要であるため、「C評価」とした。 ・H23実績 小5 70.1%（目標74.2%） 中2 58.1%（目標64.6%）
4	● 食育の推進 関係機関等と連携しながら「徳島県食育推進計画」の着実な推進とともに、人材の育成を図ります。	C	食育推進のための人材育成を目標にしているが、H23年度の取組内容において、啓発活動のみが記載されている。また、課題において「効果の測定」を掲げているが、常に気にかけておくべきことで課題としては相応しくない。

基本目標 7 宝の島・創造とくしま

項目	主要事業名・事業概要・数値目標	評価	評価意見
1	● NPO・ボランティアとの連携・協働 「とくしま県民活動プラザ」を拠点として、官民協働の推進に向け、県民による社会貢献活動に対する総合的な支援を行います。 ○「とくしま県民活動プラザ」により活動の場を提供した人数（プラザ利用者数累計） [21]27,447人→[26]128,000人 ○NPO法人数 [21]255団体→[26]310団体 ○ボランティア・アドプト登録人口 [21]143,025人→[26]150,000人	A	「とくしま県民プラザ」の取組は、NPO法人数それからアドプト登録人口も着実に増加しており、評価できる。 ただ、他の箇所にも「県民プラザ」の取組事業が記載されているので、まとめて記載したほうが分かりやすい。 ・H23実績 活動人数40千人（目標32千人） NPO法人数 291（目標280） アドプト人口146,093人（目標145,800人）
2	● 移住・交流施策の推進 移住等に関する情報・魅力発信を行うため、地域の実情に柔軟に対応し、地域の創意工夫が活かせる総合的な支援を行う「移住交流支援センター」の整備などを推進し、県と市町村が連携・協働した積極的な移住・交流の促進を図ります。 ○「移住交流支援センター」の設置地域数 [21]8地域→[26]13地域	B	数値目標は達成しており、取組は評価できるが、移住・交流の効果が上がっているのか、疑問である。地区を増やすのではなく、移住特区のようなものを考えて移住者を増やす取組をすべきではないか。 また、移住実態の把握及び数値目標の検討が必要である。 ・H23実績11地域（目標11地域）
3	● 子どもの人権の擁護 要保護児童対策地域協議会を活用し、必要な支援を実施することにより、児童虐待の早期発見・早期対応を図るとともに、虐待防止に向けた普及啓発を図ります。 ○「養育支援訪問事業」実施市町村数 [21]13市町村→[26]全市町村	C	児童虐待数が増加している中、「養育支援訪問事業」を26年度には全市町村にという数値目標を掲げており、取組方針が働きかけであるが、より積極的に26年度といわず、早急に全市町村が実施するようにすべきである。 ・H23実績 17市町村（目標18）
4	● 公正で公平な県政の推進 公平・公正な職務執行の確保のため、「コンプライアンス基本方針」に基づき、職員自らの企画・提案による取組を推進し、「職員倫理意識の徹底」、「内部チェック機能の充実強化」を図ります。	D	昨年度の評価でも様々な議論の後、C評価を付けた。しかし、それ以降も不祥事が発生している。今やっている取組のさらなる充実推進だけではなく、新たな視点も入れて再発防止について検討すべきあると考え、「D評価」とした。

3 県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

番号	基本目標	投稿方法	意見・提言の概要
1	にぎわい・感動とくしま	目安箱	○倉庫群の活用について 万代埠頭などの倉庫群ですが、マンハッタンのSOHO地区のように、名称を「SOKO」地区として、徳島をアピールできる、元気になる場所へとさらに活用していけばいいと思います。他にも、小松島港周辺など倉庫がある場所と連携し、県内にさまざまな「SOKO」地区を増やしていき、水上バスなどで結べばさらに良くなるのではないのでしょうか。
2	にぎわい・感動とくしま	知事・市町村長会議	○県南の観光政策の充実について 高知県の室戸岬が世界ジオパークに認定され、高知県と連携して県南ルートの一層の充実を図ってくれるのではないかと期待している。さらに、室戸阿南国定公園が認定されてから、2014年で50周年を迎える。それを視野に入れて県南の観光政策のより一層の充実を図っていただきたい。
3	経済・新成長とくしま	目安箱	○次世代林業プロジェクトの推進について 徳島県が「次世代林業プロジェクト」の取り組みの一環として間伐材を活用した、「自動車の木製ハンドル」、「木製の携帯電話や木製のスマートフォン」、公立学校の「木製の手すり」や「木製ベッド」、都市公園の「木製ベンチ」、「木製の漁礁」等の推進を期待します。
4	安全安心・実感とくしま	目安箱	○大鳴門橋への自転車道、遊歩道の設置について 徳島県でも大鳴門橋に自転車道、遊歩道を設けてはいかがでしょうか。ジョギング、ウォーキング、自転車ブームで健康増進への関心が高まっており、また、糖尿病死亡率全国ワースト1返上の可能性もあることから、多くのメリットがあると思います。
5	宝の島・創造とくしま	目安箱	○徳島アニメ祭り マチ☆アソビについて 徳島がアニメで盛り上がることは喜ばしいことです。一方でアニメの中でも偏ったジャンルとなるため、子どもから大人まで楽しめる内容になっていないのではないかと思います。 このため、例えば、新町橋通りをドラえもんやクレヨンしんちゃん等各世代に支持されているアニメの山車によるパレードや往年のアニメソングのコンサート等の工夫を凝らす必要があるのではないのでしょうか。 また、アニメ祭りが県西部でも行われたのは良いことですが、県南にも波及させる工夫を凝らしてほしい。また、三好市山城町はこなきじじいに由来する妖怪にまつわるイベントや、徳島市や藍住町、美馬市脇町、つるぎ町貞光では古い町並みや城跡を利用した、戦国幕末イベントも開催すべきと思う。 せっかくのイベント、一部の限られたアニメジャンルだけでなく、幅広い支持の得られる内容に育てることで、より多くの成果が生まれるものと思います。

4 参考

県政運営評価戦略会議 委員名簿

	氏 名	現 職 等
会 長	森田 陽子	佛教大学 教授
副会長	石田 和之	徳島大学大学院 准教授
委 員	阿部 頼孝	徳島文理大学 徳島文理大学短期大学部 教授
〃	井関 佳穂理	公認会計士
〃	近藤 明子	四国大学 講師
〃	佐竹 弘	徳島大学 産学官連携推進部 副部長
〃	高畑 富士子	AWAおんなあきんど塾 会員
〃	田村 耕一	徳島経済研究所 専務理事
〃	土佐 和恵	松茂農業協同組合 女性部長
〃	新田 正子	東みよし町文化協会 顧問
〃	橋本 延子	女性林業研究グループ「那賀川こまち」 会長
〃	浜口 伸一	(株)ハマグチ 代表取締役
〃	濱口 英代	和田島漁業協同組合 参事
〃	森本 長生	(株)道の駅日和佐 駅長